

魚の生食後に出現した間欠的腹痛

56 歳男性 書籍 900 頁参照

現病歴: 普段から魚を生食することが多い。来院 2 日前にカツオ、前日にイワシ、ヒラメを食べた。来院当日 16 時頃に上腹部痛が出現し、軽快しないために救急外来受診。腹痛は間欠的であり、数分ごとに増悪寛解を繰り返した。腹痛の出現後は排便、排ガスがなく、腹部の膨満感もある。

既往歴: 脂質異常症。開腹歴なし。

内服薬: なし。

嗜好歴: 飲酒は焼酎 2 合/日、喫煙は 20 本/日を 36 年間。

身体所見: 意識は清明。身長 179 cm, 体重 86.3 kg, 体温 37.1°C, 脈拍 88 回/分(整), 血圧 174/94 mmHg, 呼吸数 16 回/分。結膜に貧血黄疸なし。心肺に雑音聴取せず。腹部は膨隆し、上腹部主体に圧痛・反跳痛を認める。筋性防御なく、腸蠕動音は正常。両側肋骨脊柱角(CVA)叩打痛なし。

■ 診断の進め方

特に見逃してはいけない疾患 (考えられる疾患をできるだけ挙げる)

ここに記入

頻度の高い疾患 (考えられる疾患をできるだけ挙げる)

ここに記入

■この時点で何を考えるか？ 医療面接と身体診察を総合して考える点

(可能性の高い疾患とその理由、除外診断とその理由などを挙げる)

ここに記入

診断仮説 (仮の診断) (可能性が高いと考えられる疾患を挙げる)

ここに記入

■ 必要なスクリーニング検査 (診断を絞り込むために必要な検査を挙げる)

ここに記入

■ 検査結果

腹部単純 X 線検査：臥位では腹部正中を主体に小腸ガスと小腸の拡張が認められ、立位では niveau の形成が認められる(図 1)。

血球検査：WBC 14,000/ μ L, RBC 518 万/ μ L, Hb 15.2 g/dL, Ht 48.3%, Plt 22 万/ μ L.

血液生化学検査：CRP 2.09 mg/dL, γ -GT 117 U/L, P-アミラーゼ 48 U/L.

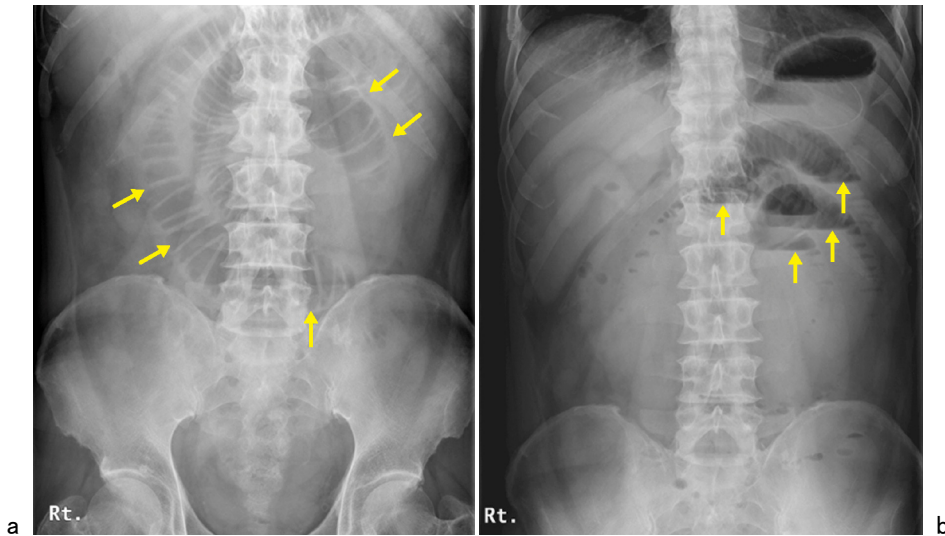


図 1 腹部単純 X 線写真

a: 臥位. 腹部正中主体に小腸ガスおよび著明な小腸の拡張が認められる.

b: 立位. niveau の形成を認める.

診断仮説（仮の診断）（可能性が高いと考えられる疾患を挙げる）

ここに記入

ここに記入

■ 診断確定のために（必要な追加検査などを挙げる）

ここに記入

ここに記入

診断 (診断結果を記入)

ここに記入

■治療の基本方針 (診断を受けて必要な治療を挙げる)

ここに記入